

戦争の跡

千葉県房総半島の南端にある館山市は海と花の町で有名ですが、戦時中、数々の軍事施設が建設されました。戦争遺跡の保存や継承に加え、地域の文化、自然を通して平和を学ぶ旅（ピースツーリズム）を発信するNPO法人安房（あわ）文化遺産フォーラムの池田恵美子事務局長（57）に聞きました。（小酒井自由）

安房文化遺産フォーラム事務局長

池田恵美子さん（57）



館山は、地図を逆さにして見ると、弧を描いた日本列島の頂点にあたります。古くから、海路の拠点として人びとが交流した地でした。江戸期に建立された、ハンゲルの平和祈念碑や、遭難記念の日中友好碑もあります。

まちを要塞化

一方、帝都防衛のための「東京湾要塞」として、砲台などさまざまな軍事施設が次々と建設されました。

現在の海上自衛隊館山航空基地は、かつては館山海軍航空基地（館空）でした。短い滑走路と風の条件を生かして、タッチアンドゴー（離着陸）訓練が行われ、「陸の空母」と呼ばれていました。

館空で訓練した部隊は、中国・重慶などへの無差別爆弾攻撃や、ハワイ真珠湾攻撃に投入されたと考えられています。

館空に隣接した赤山

館山で平和の文化学ぶ旅

地下壕（ごう）跡（館山市指定史跡）は、日米開戦前からつくられたという証言があり、平和学習の拠点として年間約4万人が訪れます。本土決戦に備えた、人間魚雷「回天」や、特攻艇「震洋」の基地など、多くの戦争遺跡が今も残っています。戦争末期には、「花作り禁止令」が出され、花畑は、サツマイモや麦畑に変えられました。花の球根や種は焼却され、取り締まりも厳しく行われました。その時、命がけで球根や種を隠し守った農民のおかげで、戦後の花作りが再びはじまったのです。

また、終戦直後には本土で唯一、4日間の直接軍政が館山に敷かれました。

館山の平和学習では、多面的な「平和の文化」を学ぶことができます。

平和のとりで 私たちは、こうした

歴史や文化、自然などを「館山まるごと博物館」と呼び、ピースツーリズムのまちづくりを進めています。

毎年、国内外から訪れる約100団体を受け入れ、ツアーガイドを実施しています。館山を訪れた人たちが、それぞれのまちでも歴史文化を掘り起こし、ともにピースツーリズムの輪を広げたいです。

憲法9条は平和のとりです。けれども、この国は再び誤った選択をしてしまうかもしれません。花が禁止された絶望の中でも、花の種子を守り抜いた農民たちのようになりたいと思います。憲法には、9条以外にも大切な条文がたくさんありますね。とくに、前文や25条に基づいた、命を守る権利を守るために、医療や福祉をもっと大切にしてほしいと願っています。